学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立落合第五小学校

■ 学校の共通目標

授業作り 環境作り

活発な意見交流やわかりやすい授業を通した児童による主体的な授業を展開する

日常生活や家庭学習、デジタルコンテンツの活用による語彙の獲得と既習事項の定着を図る

■ 学年の取組について

学	学習状況の分析	 学校が取り組む目標	目標達成のための取組
年	(各種調査から)	(日常の授業の様子から)	
1		 ・自分の思いをもち、話したり、書いたりすることで、アウトプットする力を付ける必要がある。 ・相手の考えを受け入れ、相手に自分の考えを伝えようとする意欲を高める必要がある。 ・数の構成を正しく理解し、活用する力を確実に定着させる必要がある。 	り返し指導。 ② 言葉の宝箱(語彙表)を用いて、 語彙の獲得。 ③ 友達同士の考えを聞く場の設定。 ④ 音読やあいさつで声を出す場の 積極的な設定。 ⑤ 自分の意見を発表することへの 慣れ。 ⑥ 家庭学習も活用した反復練習。
2		 ・自分の思いが伝わるように話したり、書いたりする力を付けさせる。 ・友達の考えを聞いて、自分の思いをもち、さらには自分の考えに取り入れようとする態度を育てる。 ・繰り上がりのあるたし算、ひき算など既習事項の定着を図る。 	② 語彙を増やすため、言葉の宝箱や音読のドリルを活用。
3	・国語の言葉、情報、言語文化の領域において全国平均を下回っており、言語理解を深めていく必要がある。 ・算数の各領域において概ね平均値ではあるが、正答率にばらつきがある。特に数と計算や図形についての理解を深める必要がある。	・語彙を獲得することや、自分の思いや 考えを文章化出来るようにする。 ・前年度の内容の理解が不十分である児 童がいる。 2 位数以上の加法と減法、 時計の読み方、長さなどの理解を深め る。	 ① 毎日の漢字練習や、言葉の宝箱 (語彙表)を用いて、語彙を増やしながら、文章作りをし、言葉に注目できる機会を設定。 ② 一人一冊、国語辞典を持ち、日常的に言葉を調べ、意味理解につなげる。 ③ 少人数指導で適切なコースに割り振り、昨年度の振り返りを交えて取り組めるよう授業を展開。

4	・国語科において領域ごとに 正答率を比較すると、「書く こと」の力をさらに伸ばし ていく必要がある。 ・算数科において観点ごとに 正答率を比較すると、「思 考・判断・表現」の力を伸ば していく必要がある。	 ・自分の考えを明確にもつことが必要である。 ・「読むこと」「書くこと」「話すこと」「聞くこと」において、内容の中心やまとまりを考えた整理が必要である。 ・基本的な四則計算の定着や、問題を読み取る力が課題である。 	 週末の日記の課題。 朝の時間を活用したスピーチ。 デジタルコンテンツの活用。 毎時間のペア学習またはグループ学習の設定。
5	・国語の領域では、「話すこと」、「書くこと」、「書くこと」、「書くこと」、「書くこと」に課題が見られる。 ・算数の領域では、全国平均を上回っている結果ではあるが、「数と計算」の領域に課題が見られる。 ・概ね全国の数値との比較においても上回った結果ではあるが、より基礎的な学力の向上が必要である。	 ・筋道を立てて考える力や感じたこと、 想像したことを豊かに伝え合う力を 育てる。 ・書こうとする内容の中心を明確にして どのように表現するかを理解し、活用 していく力を育む必要がある。 ・算数における基礎学力の定着を図る。 ・学習における既習事項の存在を意識して、積極的に活用していく力を伸ばす。 	【国語】 ① 毎日日記(計画ファイル)の活用 ② 全校朝会の話の聴写活動や話型を意識した文章の組み立て ③ ペアや小集団活動などの話し合い活動を効果的に活用。 ④ 明確で必要感のある学習課題や学習計画を設定。 【算数】 ① 習熟度別集団での授業展開を行い、習熟度に合わせたきめ細かい指導。 ② 基礎定着力を上げるため、授業開始時5分間で復習時間や、100マス計算を実施。 ③ デジタルコンテンツの活用。 ④ 既習事項の掲示。
6	 ・相手の思いや考えを正しく理解し、適切な反応を返す力が必要である。 ・文章に書かれていることから内容を正確にとらえる力が必要である。 ・自分の思いや考えを文章で論理的に説明する力が必要である。 ・算数においては、既習事項を活用する力が必要である。 	 ・相手の思いや考えを正しく理解し、自分の考えと比較して、適切な反応を返す力を伸ばす。 ・文章に書かれていることを根拠に、自分の考えを組み立てる力を伸ばす。 ・自分の思いや考えを、事実と意見を区別して、接続に気を付けて述べる力を伸ばす。 ・学習における既習事項の存在を意識して、積極的に活用していく力を伸ばす。 	